

# ビーストマスター2000



## BEASTMASTER 2000

spec = ギア比=5.1。最大ドラッグ力=15kg。自重=690g。糸巻き量=3号500m、4号400m、5号300m。最大巻上長70cm/ハンドル1回転。ベアリング数=B B12。実用巻上持久力=9.5kg。最大巻上速度(分)=215m。実用巻上速度(分)185m(1kg 負荷)、168m(3kg 負荷)、142m(5kg 負荷)。本体価格14万1000円



### 【強化ギアシステム】

●減速ギアをベアリング支持にするなど、プレア摩耗を大幅に低減して耐久性を高めた強化ギアシステムを搭載。

### 【GIGA-MAX MOTOR】

●ビーストマスターシリーズのみに搭載される、パワー、スピード、耐久性を備え、高温時においてもパフォーマンスが落ちないブラシレスモーター。

▶毎分215メートルの巻き上げ速度で仕掛けの回収もスピーディ

●最大巻上速度毎分 215メートルのハイスピードとハイパワーを発揮する高耐久ブラシレスモーター「GIGA-MAX MOTOR」、耐久性を大幅に向上させた強化ギアシステム、多彩なアクションを生み出す電動ジギング対応のNEW E Jモード、探見丸スクリーンなどシマノ独自の数かずの機能を搭載。ヤリイカやスルメはもちろん、アカムツやオニカサゴなどの中深海、青物、ルアーのジギングなど幅広い釣り物で活躍する。



### 【探見丸スクリーン】

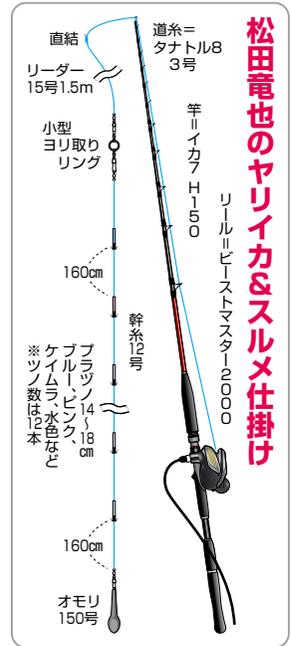
●すべての探見丸搭載船で使用できる探見丸スクリーンを装備。リールのモニターにカラー魚探が表示され、海底水深、海底形状、群れの大きさや魚体長(アキュフィッシュ)などが表示される(※アキュフィッシュ機能は、アキュフィッシュ対応の親機搭載船のみ使用可能)。



▲沖イカ専用竿のショートモデル「イカ7 H150」と軽量コンパクトボディの電動リール「ビーストマスター 2000」の組み合わせは操作性も軽快

### 【サーモジャストドラッグ制御】

●安定したドラッグ性能を維持するために、ドラッグが滑っているときはモーターの回転数を自動的に下げてドラッグ部の発熱を抑える制御機能。



### 松田竜也のヤリイカ&スルメ仕掛け

「これを見てください、探見丸スクリーンに宙層反応が出てます。サバや小魚の反応だと思えますが、この周りにはイカもいるはずですよ」

内房勝山港・利八丸のヤリイカ&スルメ船のミヨシで、松田が手にしたビーストマスター2000の探見丸スクリーンが、水深170〜200メートル前後の宙層に浮く反応を映し出していた。「落とし込みで狙ってみます」

ポイントはこの冬好調な洲ノ崎沖の220メートルダチ。投入した直結仕掛けが水深170メートルに到達すると、松田はリールのスプールをサミングして仕掛けの落下を止め、竿先を注視しながらアタリを3秒待ち、変化が

★この日のヤリイカは底付近で乗ることが多かった



「ビーストマスター2000は、3000番クラスのパワーとスピードを持ちながら軽くてコンパクト。ヤリイカやスルメを始めアカムツやオニカサゴなど、手持ちで積極的に誘う攻めの釣りが釣果につながる事が多いターゲットにもピッタリです」

自重わずか690グラム。手巻きリールに引けをとらないパフォーマンス性を備えた軽量コンパクトボディに、毎分215メートル、5キログラムでも142メートルという巻き上げ速度はビーストマスター12000ならではの、大型スルメやヤリイカを多点掛けしても余裕で巻き上げるパワーを持ち、入れ掛かり時、移動を繰り返すときもスムーズに対処できるという。

当日は派手な多点掛けこそなかったものの、松田はヤリイカ2杯、スルメイカ7杯を釣り上げ13時に沖揚がりを迎えた。「今日は拾い釣りでしたが、ヤリイカのトップシーズンはこれから。この電動リールで大型の多点掛けをぜひ楽しんでほしいですね」と言いながら、笑顔で船を下りるのであった。

# TECHNOLOGYS OF S

最新シマノテクノロジーの実証  
テクノロジー・オブ・エス vol.86

●釣り場は洲ノ崎沖の水深200メートル前後

★探見丸スクリーン画面の右下に映っているのが魚群の反応



## 探見丸スクリーンで宙層の沖イカを攻略

# ビーストマスター2000

●コンパクトボディにハイスペックなパワーとスピード、探見丸スクリーンなど数かずの最先端機能を満載したビーストマスター2000。その実力をシマノフィールドスター-松田竜也が洲ノ崎沖の沖イカで実証する。



★「海中の様子が一目で分かる探見丸スクリーンは、色んな場面で活用できます」と松田



★圧倒的なパワーでスルメの多点掛けも楽勝

★探見丸スクリーンに映った宙層の反応を見逃さず、落とし込みで攻略した会心のダブル



「これをみてください、探見丸スクリーンに宙層反応が出てます。サバや小魚の反応だと思えますが、この周りにはイカもいるはずですよ」

内房勝山港・利八丸のヤリイカ&スルメ船のミヨシで、松田が手にしたビーストマスター2000の探見丸スクリーンが、水深170〜200メートル前後の宙層に浮く反応を映し出していた。「落とし込みで狙ってみます」

ポイントはこの冬好調な洲ノ崎沖の220メートルダチ。投入した直結仕掛けが水深170メートルに到達すると、松田はリールのスプールをサミングして仕掛けの落下を止め、竿先を注視しながらアタリを3秒待ち、変化が

なければ5メートル刻みで止めを入れつつ落とし込みでタナを探っていく。するとこの作戦が当たった。

190メートル付近で仕掛けを止めた直後にククンと竿先が震え、グイッと竿を立てると乗った。松田は波などによる船の上下動でイカが外れるのを防ぐため、毎秒1.5〜1.8メートルとやがや早めの速度で巻き上げる。上がってきた仕掛けをよどみなくたぐり込み胴長25センチ級のスルメをダブルで取り込んだ。

「洲ノ崎沖のスルメやヤリイカは宙層に浮くことも多いので、地形の変化や魚群などが手元で視認できる探見丸スクリーンからの情報が大きなアドバンテージになります。海中の様子が一目で分かる探見丸スクリーンは、色んな場面で活用できます」と松田